

委員会の意見

(1) まず全体的な印象を言うと、テレビ朝日の回答は、放送倫理検証委員会からの質問に正面から向き合い、番組制作関係者の実感や肉声から発せられたものとは言い難い。

委員会を構成する委員一人ひとりが期待するのは、何よりも番組制作にあたる関係者が自由・自主的に、他方で、専門的な知性と責任を忘れることなく質の高い放送を行うことである。現実的には幾多の困難があるにせよ、関係者一人ひとりが工夫を凝らし、多様・多彩な放送活動を実現していただきたい、と私たちは考えるし、第三者的立場から、そのための条件を作り出すために努力しているつもりである。

制作現場のリアリティーを感じさせない回答は、今回の関係者の教訓にならないばかりか放送界全体の質的向上にも寄与することがない。この点を、委員会は最初に言っておきたい。

(2) 今回の問題は、なぜ現在は店員でない発言者に、ことさらに制服を着させ、店長代理のバッジを着用させたのか、またなぜおわび放送までこれだけの時間を要したのか、の2点である。

(3) 回答4では、制服を着させバッジを着用させたことについて「視聴者にわかりやすく表現したかった」と述べているが、報道番組でこのような演出を行えば「視聴者に混乱と誤解を与える不適切な表現方法」となることは、放送前からわかっていなければならないことであった。「わかりやすく」というよりも、映像として「強い」「ショッキング」「効果的」で、かつ「作りやすい」と判断したからこそ、番組関係者である証言者に制服を着させたのではないかとの指摘が委員会ではあった。

このような安易な短絡的映像至上主義による演出は、取材報道にあたっての慎重さに欠けるものであったと言わざるをえない。

(4) おわび(謝罪)放送にあたって「あえて」という言葉を用いたことに関する質問7に対する回答は、「包み隠さず自ら進んで不適切な表現方法を認めオープンにする」とされている。

しかし、言うまでもなく、「あ(敢)えて」とは「(しなくてもよいことを)強いてするさま。わざわざ。無理に」(大辞林第2版)、「しいて。おしきって」(広辞苑第6版)の意味であり、内外から多くの指摘を受け、10日も経過してからの「おわび(謝罪)」において使用するのには、極めて不適切な用語である。

さらに回答8には、「放送で謝罪するにあたって、何よりも事実関係を正確に確認・検証する必要があり、また証言者の身元が特定される可能性のある情報をどこまで表現すべきか、慎重にならざるをえず、議論を重ねた結果」、おわび（謝罪）放送までに10日間も要したとある。

とはいえ、告発発言者が番組関係者であったこと、発言者が現在はマクドナルドに勤務していないことは当初から明らかであったこと、問題は演出に誤解を招く不適切さがあったことであって発言の内容の真偽ではなかったことから考えると、なにゆえこれほどの時間を必要としたのかは理解に苦しむところである。「慎重にならざるをえず」はまさに取材調査の段階、放送前に意識されなければならない事柄であった。

(5) 今回のケースは、告発内容それ自体にではなく、告発発言者にかつてアルバイトをしていた際の制服を着用させるという表現・演出方法が問題であった。

「テレビ朝日番組基準」には、「放送に当たってはテレビジャーナリズムの特性を活かし、事実を正確、迅速、公正に取扱う」とあるが、番組制作関係者のあいだでこうした「基準」がタテマエ化し、目先の「おもしろさ」「映像の強さ」「作りやすさ」に陥る傾向がありはしないか。関係者一人ひとりが、自ら定めた「基準」に立ち返り、その意味するところを血肉化していくことを、委員会は求めたい。